

北イタリア安全対策情報 2020年7月～9月

1 治安情勢

(1) 邦人観光客が極めて少なかった今夏のバカンスシーズンでは、例年見られるベネチア等観光地でのスリ被害のほか、長期留守宅に懸念される空き巣被害の報告がなかった。

一方、いわゆる「パンク盗」(※)により駐在員等の長期滞在者への被害が複数発生したことに加え、当館への被害報告がなかったものの、ミラノ市内において車上荒しの被害車両が散見され、コロナ禍における犯罪が徐々に発生しつつある。

※ 車のパンクを口実にして被害者の注意をそらし、その隙に車内から金品等を盗む手口

(2) イタリア国内でテロの発生及び未遂事案はなかった。治安当局は9月、ミラノ地検より2016年にテロ目的の共謀容疑として逮捕状が手配され、シリアの難民キャンプに滞在中であった容疑者を逮捕するなど、テロ対策を鋭意推進している。

2 日本人被害例 (件数は当館に届け出のあったもののみを計上)

- (1) スリ 0件 (参考: 4月～6月は0件)
- (2) 置き引き 0件 (同 : 0件)
- (3) 車上狙い 2件 (同 : 0件)

ア 8月17日(月)午後7時頃、車で帰宅途中であった被害者は、バイクに乗車した犯人に車両後部窓ガラスを叩かれたが、不審に思い犯人を振り切って帰宅したところ、後輪がパンクしていた。そこに「パンク的事实を伝えたかった」とする犯人が再度現れ、パンクしたタイヤの空気線を外す等して、注意をそらされた隙に助手席に置いたバッグが盗まれ、その場から猛スピードで立ち去られた。

イ 9月29日(火)午後8時頃、車で帰宅途中の被害者が信号待ちをしていたところ、スクーター乗車の犯人にナイフ様の物で後輪をパンクさせられるとともに、被害者が原因で追突事故が発生したと言いがかりをつけてきた。その後も執拗につきまとわれ、注意をそらされた隙に犯人の仲間が助手席ドアを開け、座席上のバッグが盗まれていた。

3 殺人・強盗等凶悪犯罪例

日本人以外の被害が発生した事件の一例は以下のとおり。

- (1) 拳銃使用強盗(殺人未遂、強盗)

7月24日(金)

夕方頃、ミラノ市内コルマーノ(当館より北方約8km)のスーパーマーケットにおいて、イタリア人男性(64歳、犯罪歴なし)による拳銃使用強盗事件が発生。その際に犯人が地面に向けて発砲した弾が跳弾し、警備員及び少女が負傷。犯人は現場から逃走したが、数時間後に警察に発見され検挙された。

- (2) 連続的な無差別暴行

8月5日(水)

午後11時頃、ミラノ市内ナビッリョ地区(当館より南西約3km)3箇所にお

いて、イタリア人男性（23歳）がそれぞれの場所で面識のない女性1人の顔や肩を殴打する暴行を加えた。犯人は現場から逃走したが、臨場した警察官に発見され、検挙された。

(3) 強姦

9月26日（土）

未明、ミラノ市内ミラノ北公園（当館より北方約7.5km）内にて、20歳女性が友人と別れた後に何者かに強姦された。犯人は現場から逃走し、警察が捜査中。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

特になし

6 対日感情の変化

特になし。

7 日本企業の安全に関する諸問題

特になし。